

2020年度 保健医療技術学部報告

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)	
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる	
			評価	評価の理由/課題/根拠データ等		
<p>1) 教育 学生による授業アンケートの平均点4.22(前年度4.20)、学修状況調査に基づく授業満足度85%(前年度84.2%)、そして、KPIとして4月在籍者ベースの進級・卒業率93%(前年度87.7%)を目標に掲げる。進級・卒業によって達成感を持って次のステップに進むのが満足の根底にあるからである。学習困難に発する留年・退学を減らし、6年卒業率95%を達成させる基本的な値である。学生による授業アンケートへの対応と学部FDを授業改善の主軸として、目標達成に努める。感染症対策を踏まえつつ、遠隔授業、学内実習(演習)、臨地実習の遂行と学修の質の維持を図る。</p> <p>2) 研究 感染症対策を施した研究を遂行するために、研究計画をたてる段階から慎重な検討が求められる。研究倫理についての研修会を実施して、対応策を共有する。</p> <p>3) 運営 感染症対策で導入が加速されたオンラインシステムを活用し、継続していく。対面で行う必要のある業務について対策を協議し、マニュアル化、相互監査、改善していくシステムを構築する。</p> <p>4) 社会 感染症対策を踏まえた保護者会・後援会支援、卒業生支援、地域連携について検討する</p>	<p>1) 教育 学生による授業アンケートをマークシート方式からオンライン方式に変えて実施した。回収率は62%で前年度の93%の3分の2に減った。学修状況調査を4学科4学年全学生を対象に2020年10月～11月に行った。休学を除く在籍者1189名中504名(42%)から回答を得た。当初予定した授業改善案を踏まえつつ、オンライン化に対応する授業運営に取り組んだ。新型コロナウイルス感染症拡大の状況で実習病院と連絡を取り、必要に応じて学内代替実習を実施した。学部FDを3月18日に実施した。2020年度新型コロナウイルス感染対策カリキュラムを終えて振り返りと2021年度に向けた改善方策の検討を行った。</p> <p>2) 研究 研究倫理審査件数は30件あった。臨床研究倫理講習会をオンデマンドコンテンツの視聴と課題回答形式で行った。2020年度科研費採択数は8件で、うち2件はスタート支援であった。</p> <p>3) 運営 一部の会議を除いて、通常の会議は概ねオンライン化された。会議資料の完全な電子化が成立した。</p> <p>4) 社会 個別面談を10月に、授業公開を11月に、ふじみ野キャンパスと本郷キャンパスの両方で実施した。</p>	<p>学生による授業アンケート実施(回収率62%)</p> <p>学修状況調査実施(回答率42%)</p> <p>学部FD実施(参加率97%)</p> <p>倫理講習会実施(参加率90%)</p>	<p>1) 教育 学生による授業アンケートの平均点は4.09で前年度(4.22)を0.13ポイント下回った。個々の科目に対する評価は学修調査の結果ほど落ち込まなかった。授業満足度の肯定率(ある程度満足している+非常に満足している)は49%で前年度の88%から大きく低下した。大学施設の使用が制限を受けたことの影響が大きかった。KPIとして掲げた4月在籍者ベースの進級・卒業率は目標の93%を下回ったものの、前年度の87.7%をわずかに上回った。進級率は1年、2年で低く、卒業率は臨床検査学科で低かった。国家資格取得も進級・卒業と同程度に重要である。新型コロナウイルス感染禍の中で、カリキュラムを遂行できた。</p> <p>2) 研究 10月に本学における人を対象とする研究における新型コロナウイルスへの標準的感染予防対策が運用されるようになり、研究活動が再開した。2021年度科研費採択数は年度当初数は同じであった。</p> <p>3) 運営 入学定員の確保、教員体制の維持の視点をおいた対策が必要である。</p> <p>4) 社会 保護者との連携は果たせた。地域・卒業生との連携活動は実施が見合された。</p>	<p>4月在籍者ベースの進級・卒業率 89.3%</p> <p>理学療法学科 94%</p> <p>作業療法学科 94%</p> <p>臨床検査学科 83%</p> <p>看護学科 89%</p> <p>1年 81%</p> <p>2年 84%</p> <p>3年 100%</p> <p>4年 95%</p> <p>新卒者国家試験合格率</p> <p>理学療法士 93.4%</p> <p>作業療法士 97.4%</p> <p>臨床検査医技師 88.7%</p> <p>看護師 100%</p> <p>保健師 100%</p> <p>科研費採択数6件(4月1日)</p> <p>2021年度入学者</p> <p>理学療法学科 86名</p> <p>作業療法学科 29名</p> <p>臨床検査学科 74名</p> <p>看護学科 107名</p> <p>合計 296名</p>	<p>1) 教育 教員による授業自己評価は従来通り、学生アンケート前(教員ごと)と学生アンケート後(科目ごと)の2段階で実施する。次年度は面接(対面)授業を増やしていくとともに、オンライン授業の経験を活かしてその良いところを利用していく。感染再拡大の抑制には引き続き、最大限の努力を払う。進級率を上げるには入学前教育、初年次教育、学習支援、個別指導など包括的な対策が求められる。卒業率を上げるには、指導に当たったの学科の戦略を見直す必要がある。国家試験合格率の要素を組み入れたKPIに変更する。</p> <p>2) 研究 引き続き、研究環境の整備に配慮する。</p> <p>3) 運営 入学定員の確保、教員体制の維持の視点をおいた対策が必要である。学部のパフォーマンスを最適にするために、学部委員会の目的・目標を学部内で共有し、課題に対して協働で取り組む体制を整える。</p> <p>4) 社会 地域連携活動や卒業生のスキル・キャリアアップ支援を再開する。埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)活動への参画を目指す。</p>	

2021年度 保健医療技術学部

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
<p>1) 教育 面接授業を57%の科目で実施する時間割を策定した。教員自らが感染予防策を遵守・励行し、学生と連携して最高の教育効果を維持できることを目指す。学生による授業アンケートの平均点4.20(前年度4.09)、学修状況調査に基づく授業満足度70%(前年度49%)への回復、そして、KPIとして5月1日在籍者ベースの進級卒業率と国家試験合格率の相乗平均を掲げ、93%(前年度92.2%、前々年度91.8%)を目標値に設定する。授業改善に向けた取り組みが学生に見えるように、教員が学生アンケート結果を踏まえてどのように改善を図ろうとしているのか、学生に公開する。学位授与方針にある専門職の倫理、知識・技能、協働力と自己成長力について、基礎分野、専門基礎分野、専門分野のコアとなる科目を通して総合評価を行う。4学科で国家試験対策を実行する。高大連携の取り組みを加速させ、入学前教育、初年次教育、能動的学修の推進に還元する。4学科でおのおの新入生研修を継続する。</p> <p>2) 研究 研究倫理を踏まえた研究計画・実施が質的・量的に継続して増していく環境を整備する。競争的資金獲得を促進する。特に科研費の応募を推進し、6件の採択を目指す。大学院生・教員合同の研究を促進する。学部紀要への大学院生の論文投稿を誘導する。</p> <p>3) 運営 入学定員の確保に重点を置く。各学科・専門職の魅力を受験生に伝え、「共育力」を説明する。教員組織の維持、医療技術者養成所指定規則に則った教育指導体制の維持に努める。学部委員会の委員長と学部長で協働して、各委員会の役割の認識共有を図る。</p> <p>4) 社会 学生、卒業生のキャリア支援を継続する。就職希望者の100パーセント内定を目指す。埼玉東上地域大学教育プラットフォームに関わる活動を選定する。国際交流に関わる学部の取り組みを継続する。オンラインによる留学を推進する。保護者会、後援会と連携した教育を持続させる。病院施設の実習指導者育成に協力する。</p>